

かしわ

「やり抜く力」

校長 北村 耕一

最近ビジネスマンを読むと「グリット」という言葉を目にするようになりました。「グリット」とインターネットで検索すると幾つかの項目が出てきます。その中の一つには「『グリット』(grit)とは、『困難にあってもくじけない闘志、気概、気骨』などの意味を表す英語で、成功者に共通の心理特性として近年注目されている「やり抜く力」のことです。心理学者でペンシルベニア大学教授のアングェラ・リー・ダックス氏が、『社会的に成功するために最も必要な要素は、才能やIQ(知能指数)や学歴ではなく、やり抜く力である』という『グリット』理論を提唱して以来、教育界や産業界をはじめさまざまな分野で大きな反響を呼んでいます」と記されています。

8月19日(土)に大宮で行われた特別支援教育士(S.E.N.S)の資格更新のための研修会に参加しました。講師の今井正司先生(名古屋学芸大学)は、子どもの成長思考を育てるほめ方の一つとして、子どもの才能をほめるのではなく、グリットをほめることを紹介してくれました。

また、グリットを促進する**認知**的知識を育てる方法として、①「どうしたら、そんなに上手いくの?」という言葉がけを子どもにする。②子ども本人がほめて欲しいところ以外もほめる。③ほめることに加えて、子どもの苦手部分も評価する。④結果と同じくらい、子どもの取りかかり行動をほめる。⑤教師の代わりにほめる役を子どもにしてみよう、と述べていました。



No. 15 平成29年10月12日 ハンパース

(注: **認知**とは、認知心理学の用語。自分の行動・考え方・性格などを別の立場から見て認識する活動をいう)

この「やり抜く力」は「生き抜く力」の一つではないでしょうか。子どもであれ大人であれ、物事を最後まで行うことは大切なことです。与えられた役割や仕事を最後まで続けて行うこと＝やり抜くことは、他者からの信頼を得、また自分自身の達成感獲得につながるものだと思います。そして「自信」となり、次の役割や仕事に取り組む活力になるのではないのでしょうか。

今年度の後期が始まりました。これからの半年、子ども個々によって「やり抜くもの」は異なりますが、大人である私たち(保護者、教職員)は、是非「やり抜いたもの」を見つけて、子どもをほめてあげたいと思います。私は今年度の始業式で話した「健康を大切に元気に登校すること」を引き続き「やり抜いて」もらいたいと思っています。また、後期は11月11日(土)のかしわ祭の取り組みが本格的になるので、発表当日まで熱心に取り組む、「やり抜いて」もらいたいと思っています。

子どもの「やりぬく力」を育成するのは私たち(保護者、教職員)です。後期もよろしく願います。

「聴覚障がい理解研修会」を主催して

支援グループ長 総括教諭 石崎 龍介

本校には、在籍する聴覚障害の幼児・児童・生徒へのカリキュラムに基づいた指導・支援を行う役割の他に、他の県内ろう学校と共に、地域の聴覚障害を持った

就学前から就学後の子どもたちに対して、また保護者や学校関係者などへの地域支援の役割があります。その中でも横須賀市教育研究所(久里浜)をお借りして、平成22(2010)年より毎夏開かれてきた本研修会は、冬の「子どものためのきこえとことばの相談会」(横須賀市総合福祉会館)と合わせて、学校として取り組む大きな地域支援のイベントです。

例年、国立特別支援教育総合研究所から聴覚障害教育専門の先生を講師にお呼びしてご講演をいただき、本校教員と共に横須賀市内の聴覚障害児童・生徒の担任、養護教諭等と共に学んでいます。講演の後にグループ協議会をもって、地域で学んでいる難聴児への支援を進める手がかりを得たり、実際の課題を共有したりと実践的な研修となっています。

今年は昨年度から本格化して進められている、障がいのある子もない子と共に学ぶ事を目指す「インクルーシブ教育システム構築」の取り組みについて、聴覚障がいのある子どもたちに対してどのように進めていくのかを研修しました。講師には先の国立特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システム推進センター長・席総括研究員であり、本校の学校評議委員でもある原田公人先生をお招きして、「聴覚障がい児のためのバリアフリー化や授業のユニバーサル化について」お話をお聞きしました。



実際に集まった難聴児童・生徒の担任など

約10名の外部参加者をお迎えして、7~8人という話しやすい雰囲気の中で分科会を組み、それぞれのメンバーの抱える問題に沿って、難聴児への取り組みや視点を学び合うことが出来ました。

特に今回は講師の原田先生が、事前に参加者のニーズを聞き取って、講演の中でも触れて頂いたり、各グループを回って頂いたりして、「自分たちの実践に

繋がる内容だったので、時間が足りなかった」「こういう研修なら、他の先生にも声を掛けて一緒に参加したかった」など、前向きな感想も頂きました。



本研修会が有意義な内容になりましたのも、お忙しい中、準備の段階から当日最後までおつきあい頂来ました、原田公人先生のおかげだと思います。

なお、今年度の「子どものためのきこえとことばの相談会」は、平成30年1月28日(日)に開催いたします。多くの子ども・保護者の相談を受け入れられるよう、準備していきたいと考えています。

うれしいお話

9月25日(月)に市民の方から電話でうれしいお話をいただきました。それは、その方が京浜急行線の北久里浜駅を利用した時に、下りホームで補聴器を装着し、手話を使っていた児童2名が、ホームに落ちていた空き缶を拾ってゴミ箱に捨てていたのを目撃したという話でした。その方は「感動した」そうです。補聴器や手話、北久里浜駅ということで、本校の児童だと思い、電話をくださったそうです。

早速、職員会議で教職員に伝え、小学部で褒めていただくことにしました。

子どもは大人の背中を見て育ちます。おそらく、ゴミを拾ってゴミ箱に捨てた児童は、日頃から保護者や教職員の行動を見ていて、今回の行動を自然に行ったのだと思います。保護者の皆様と教職員のマナーを守る姿勢に改めて感謝いたします。

訃報

本校第4代校長 坂田 午二郎 様(87歳)におかれましては、平成29年1月20日にご逝去されました。ここに深く哀悼の意を表すとともに、謹んでご通知申し上げます。